

会 報

らくちん

創刊号

1992.6

日本 AS 友の会

AS とは Ankylosing Spondylitis の頭文字で「強直性脊椎炎」の略称として使われています。

憧 れ

あこが
憧れは 掌^{てのひら}の上の ギヤマンの玉なるや
たとえ 地に^お落ちて^{くだ}砕けても
憧れは まだ 掌の上にあり



目 次

「らくちん」創刊にあたって……………	1
日本A S友の会会長 田 中 健 治	
A Sの患者のみなさんへ……………	2
大阪府立成人病センター整形外科部長 小松原 良 雄	
日本A S友の会規約……………	3
「日本A S友の会」活動経過……………	4
A S I F加盟のお知らせ……………	6
ご寄付ありがとうございました……………	7
賛助会員のご紹介……………	7
会費納入のお願い……………	7
賛助会員の募集について……………	7
寄付金公募について……………	8
A Sワンポイントアドバイス……………	9
体験レポート（家族から）……………	11
「私の援助」 安 藤 真由美	
患者さんのための「療養の手引書」作成に関するお願い……………	13
A S特別診、電話相談窓口開設のお知らせ……………	13
会員名簿送付のお知らせ……………	13
予告と原稿募集のお知らせ……………	13
第2回日本友の会開催のお知らせ……………	14
A S専門医の紹介……………	15
日本A S友の会・役員一覧表……………	17

「らくちん」創刊にあたって

日本A S友の会会長

田 中 健 治

平成3年2月25日、極めてわずかなメンバーではありましたが「日本A S友の会」が設立されて以来、本日ここに、待望の会報第1号が発刊出来たことは、私どもにとりましてこの上ない喜びでございますとともに、関係各役員はもとより、ご協力下さいました多くの方々に厚く御礼申し上げる次第でございます。

表題の「らくちん」については、賛否異論がありだとは存じますが、不肖私が命名させていただきました。関西弁なのか関東弁なのか標準語なのか定かではありませんが、私どもが日常さりげなく使っております言葉の中から拾い出したものです。

「らくちん、らくちん」と重ねて使ってみたり、「らくちんやなぁ」とか「らくちんだよね」とか、漢字を当てはめてみれば“楽珍”とでも書くのでしょうか。痛い痛いと言い暮らしながらも、歯を喰いしばって、人並に社会生活にたずさわってゆかねばならない私達に、「らくちん」と感じられる時間や日々が、少しでも多く、少しでも長くなればとの願いがユーモラスな表現の中に込められています。

友の会の活動につれて、世界の動向や日本の実情などが次第に明らかになって参りました。日本に於いて、A S（強直性脊椎炎）の研究や対策が、R A（慢性関節リウマチ）に比べ、同

じリウマチ病の範疇にありながら、なぜこれ程までに大きく立ち遅れたのかについては、いくつかの理由が考えられますが、中でも、最も注目したい理由の一つに、R A主体の「リウマチ友の会」がR A対策の発展に果たした役割の大きさが挙げられます。私たちは、この事実「A S友の会」として謙虚に、多くを学んでゆきたいと思います。

最近、眼科医や耳鼻科医からも、A Sの疑いとして専門医の診断を勧められるケースが出始めております。A Sは全身病なのでから、いずれこうしたケースもあり得ると思っておりましたが、医師による「A S研究会」がスタートして以来、A Sへの認識が非常に速いスピードで昂まっていることを感じさせてくれます。

細々と長く苦しい道のりを経て、いまようやく、日本に強直性脊椎炎の扉を開く新時代が到来したことを実感しています。私たちはASのご縁で知り合い、友人になり、さらに友の会を通じて盟友となりました。これからは互いに手をたずさえて、日本のAS対策の資質向上に取り組んでゆかねばなりません。そのために、どしどし力を貸して下さい。智恵を出して下さい。ご自分の貴重な体験や情報を提供して下さい。

皆さんで、A Sの将来を明るくしようではありませんか。

ASの患者のみなさんへ

大阪府立成人病センター整形外科部長
小松原 良 雄

日本AS友の会々報にご挨拶できますことを
光栄に存じております。

ASという略字はankylosing spondylitisの
頭文字をとったもので、日本語では強直性脊椎
炎という病名が用いられています。ギリシャ語
で曲がっているという意味のankylosと脊椎を
表すspondylosを合わせた言葉で、この病気に
かかり長く放置されていますと、脊椎が前に弯
曲して高度の円背の姿勢をとる症状の特徴を表
している病名です。末梢関節炎も起こるので慢
性関節リウマチと間違えて診断されることもあ
りますが、別の病気です。しかし炎症により起
こってくる病気ですので、広い意味のリウマチ
性疾患のひとつにあげられています。

原因不明ですが体質・素質が発病に関係して
いるので人種により頻度に差があります。欧米
や中国と比較しますと約1／10以下とわが国で
は稀な病気といえますが、全国では何千人かの
患者さんがおられると推定されます。

この病気のはじまりは腰痛や殿部の痛みでよ
く椎間板ヘルニアなどの腰痛病と誤られる場合
も多く、診断されるまでに数年以上たっている
患者さんも少なくありません。短期間に治って
しまう病気ではなく、おそらく終生注意が必要
となってまいります。治療剤がよく効いたから

といって油断はなりません。進行しますと高度
の身体障害が生じます。

しかし、30年以上経過を調査した外国の報告
では90％以上の患者さんは日常生活を維持して
いるようで、この病気についてよく理解してい
ればそれほど心配しなくてもよいと思われま
す。

早い時期から正しい治療と生活についての配
慮を考えていけば、これにはリハビリテーショ
ンも入りますが、救われる患者さんも多くな
ると考えられます。

今回、日本AS友の会が発足し、患者さんの
手により大きな世論が広まれば出足の遅い国の
対策も進むことが期待できます。同じような患
者さんの集まりは先進国ではすでに活発に活動
されています。

福祉のみならず原因のわからないASの病因
の追求や治療の研究が、これを機会に全国で展
開されていくことが予想されます。国のみなら
ず医療を担当するわれわれにどんなことを望ま
れるのか、患者さん方の声がこの会報に盛られ
るようにしてほしいと思います。

いづれにせよ、日本AS友の会の今後のご発
展を祈念しております。

日本 AS 友の会規約

（主 旨）

当会は、会員相互の親睦を図りながら病気を正しく認識・理解するとともに、その治療法の開発、福祉・厚生確立、ならびにASに対する社会認識の向上に寄与していくものである。

（構 成）

当会は、AS患者からなる会員と、医師、医療関係者、ならびに会員家族、その他有志からなる賛助会員をもって構成される。

（当面の活動）

4. AS友の会の土台作り

- イ) 会報を定期的に発行する。
- ロ) AS研究会と協力して全国のAS患者の実態を把握する。
- ハ) 諸外国の友の会との情報交換に努める。

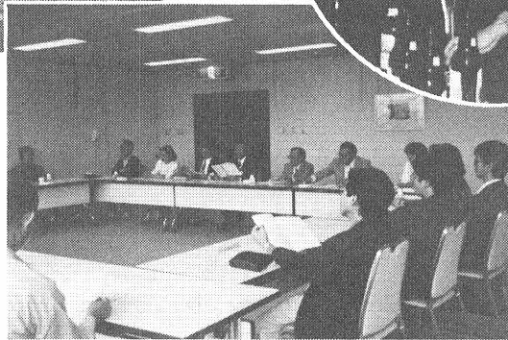
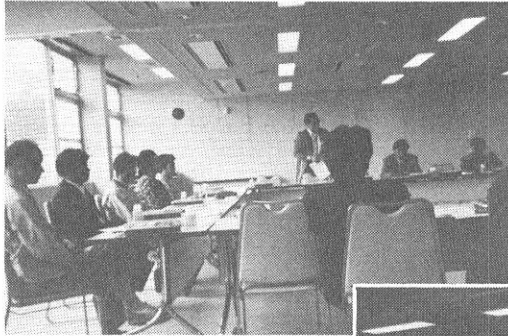
5. 会員相互の親睦

- イ) 総会、研修会、レクリエーション、合同リハビリテーション等を開催し、これを通じ、相互理解を深め、さらには療養上有意義な情報交換をし合う。
- ロ) 病因究明・治療法の開発に協力する。
- ハ) 装具や自助具の開発や紹介を行なう。
- ニ) 医学情報の提供や専門医の紹介を行なう。

6. 福祉行政への働きかけ

AS研究会と協力して、全国的に難病指定になることを厚生省に働きかける。

「日本A S友の会」活動経過



- 平成2～3年

AS研究会の発起人（医師）が中心となって、134ヶ所（回答74ヶ所）の医療機関にアンケート調査、AS患者総数332名が登録される。

- 日本A S友の会設立準備委員会発足

- 平成2年10月1日 東京都特定疾患指定

- 平成3年2月25日付

七川欽次（日本A S研究会理事長）

田中健治（日本A S友の会会長）

を発起人として、「日本A S友の会」発足（朝日新聞に掲載）

- 平成3年9月

「日本A S友の会発足のお知らせ」作成
世話人ならびに顧問医決定

- 平成3年10月12日 第1回A S友の会総会開催

（大阪コミュニティプラザに於いて、第1回日本A S研究会と同時開催）

A S研究会

520 - 21 滋賀県大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学整形外科内

（事務局長 滋賀医科大学整形外科教授

福田眞輔）

参会者数 26名（家族も含む）

役員人事 会 長 田中健治

副会長 井上 久

（事務局長・会計）

副会長 中島拓朗（関東支部長）

副会長 西 文夫（関西支部長）
監 事 塩崎浩三（埼玉地区長）
監 事 安黒正流（編集委員）
監 事 吉田正靖
（自助具開発委員）
委 員 金光健宅（滋賀地区長）
（その他、委員は順次選出）

会費決定 会員 1000円／年
賛助会員 個人 3000円／年
団体 10000円／年

A S研究会聴講

第1回日本A S研究会会長 七川欽次氏
会長講演
ケースウエスタン大学教授 Asim Khan氏
招待講演

A S研究会会員と合同懇親会

- ・平成3年10月
リウマチ財団理事長、塩川優一氏に、第1回友の会総会への祝電に対する礼状ならびに「友の会」発足の挨拶状送付
- ・平成3年11月 読売新聞に友の会の紹介記事掲載
- ・平成3年11月20日
「日本A S友の会」郵便振替口座開設（東京2-753819）
- ・平成3年12月
井上久・中島拓朗・塩崎浩三が厚生省疾病対

策課訪問、北窓課長と面談

「日本A S友の会」発足の告知、その他A Sに関する資料提出

難病指定などに関する実情聴取・指定要請（非公式）

- ・平成4年1月15日

日本A S研究会理事長・七川欽次、日本A S友の会会長・田中健治の連名で、厚生省保険局に、HLA検査の健保認可に関する陳情書提出

- ・平成4年2月

日本リウマチ財団へ支援要請の文書提出

- ・平成4年2月

A S I F本部へ入会申請、受理

- ・平成4年4月3日

井上 久事務局長 全難連本部訪問

会長 岩下 宏、事務局長 赤坂紀代子に面談

全難連と日本A S友の会の概要説明、資料交換

- ・平成4年4月11日

役員会（出席者：田中健治、西 文夫、吉田正靖、井上 久）

会報編集会議。

全難連入会に関し、時期尚早との判断にて延期と決定



ASIF加盟のお知らせ

平成4年2月、「日本AS友の会」は、Japan Ankylosing Spondylitis Club (J A S C) として、ASIFに加盟を申請し受理されました。

ASIF すなわち Ankylosing Spondylitis International Federation とは、1975年にイギリスの患者友の会である N A S S (National Ankylosing Spondylitis Society) によりその基盤が築かれ、相互に連絡をとりながら一致協力して、A S という疾病の一般社会への啓蒙、行政への働きかけ、情報交換、さらには医学研究促進への寄与などを目的として設立された各国友の会を統括する上部団体です。1988年イギリスの温泉地である Bath で第1回の会合が開かれています。

現在までの、加盟国は昨年加盟した日本を加えて24ヶ国となっており、我が「日本A S 友の会」の入会を積極的かつ好意的に迎え入れてくれました。

加盟国名、会の略称、創設年度、会員総数(患者会員数)は後述の如くですが、1万人以上の会員を持つ国(ドイツ、オランダ)、独自の手引き書や立派な機関紙を作って一般社会に向けて活発に活動をしている国(イギリスやアメリカその他)、多くの支部に分かれ(イギリス60支部、スウェーデン230支部)、それぞれが毎週会合や活動を活発に行っている国もあります。

オーストラリア (AASS) : 1985年.100.

オーストリア (Ö VMB) : 1985年.1346 (903).

ベルギー (VVB) : 1983年.900 (720).

カナダ

トロント (OSA) : 1985年.415 (385).

ブリティッシュコロンビア (ASA - BC) :
1990年.230 (184).

デンマーク (LMBP) : 1973年.750 (712).

フランス (ACSAC) : 1979年.810.(712)

ドイツ (DVMB) : 1980年.14787 (13741).

イギリス (NASS) : 1976年.6000 (5940).

アイルランド (ASAI) : 1986年.140.

イタリア (AISA) : 1987年.512 (415).

ノルウェー (NRF) : 1986年.3000.

ポルトガル (ANEA) : 1982年.400 (300).

スロベニア (DBIASS) : 1983年.680 (626).

スウェーデン (BERI - RMR) : 1978年.4167
(3667).

スイス (SVMB) : 1978年.3211 (1712).

アメリカ (ASA) : 1983年.2500 (2150).

チェコスロバキア : 1990年.350 (343).

ホンコン (PHABC) : 1983年.180 (120).

ハンガリー (MEOSz) : 1981年.700.

オランダ : 1979年.230.

ペルー (APESAN) : 1990年.6 (3).

シンガポール (SASC) : 1990年.80.

スペイン (ANEA) : 1986年.2000.

日本 (JASC) : 1991年.72. (72)

*なお、今年の10月14日(水)～17(土)に、オーストリアの温泉地 Badgastein に於いて、第2回の国際会議が開かれます。参加ご希望の方は、事務局長の井上までご連絡下さい。

ご寄付ありがとうございました。

- ・後藤 房市 様 3,000 円
- ・田中 健治 様 20,000 円
- ・(有)イノウエメディカルコンサルタント様 200,000 円
- ・吉田 正靖 様 30,000 円

賛助会員のご紹介

(1992年5月末日現在)

次の方々が賛助会員として入会されましたので、ご紹介させていただきます。(敬称略)(順不同)

〈個人〉

- ・青 石 真 次 (団体職員)
- ・土 井 清 之 (新聞記者)
- ・里 廉 平 (教 師)
- ・関 根 秀 和 (教 師)
- ・柳 田 元 (会 社 員)
- ・津 田 昌 宏 (自 営)
- ・山 下 豊 彦 (会社役員)
- ・小松原 良 雄 (医 師)
- ・上 好 昭 孝 (医 師)
- ・三 井 弘 (医 師)
- ・前 田 晃 (医 師)
- ・辻 本 正 記 (医 師)
- ・西 岡 淳 一 (医 師)

〈団体〉

- ・近代装備工芸有限公司
- ・(有)イノウエメディカルコンサルタント
- ・株式会社 西文産業
- ・タナカ印章工芸

会費納入のお願い

会費は年間1000円ですので(現行)、平成4年度分と明記して、所定の郵便振替用紙にて、下記の口座へお振り込み下さい。

郵便振替口座	東京2 - 753819
	「日本A S 友の会」

平成4年4月末日時点で、会員数72名。
皆さんの傍にA S の患者さんがいたら、是非、入会を勧めましょう！

賛助会員の募集について

当会では、会の趣旨に賛同される賛助会員を広く募集しています。

賛助会員は、会員と同等の資格・権利を有し、必要に応じて委員として会の事業に参画することができます。

お申込みについては、下記の要領で、ご記名の上、各役員を経由するか、あるいは直接会長もしくは事務局長へ郵送(FAX可)して下さい。お申込みを受理した後、振込み用紙発送の手続きをとらせていただきますが、郵便局備付けの振込用紙で、通信欄へ必要事項をご記入の上、会費ご入金と同時に申し込み下さってもかまいません。

郵便振替口座	東京2 - 753819
	「日本A S 友の会」

ご記入していただく内容

- ・個人会員(会費 年間3000円)
- 住所、氏名、性別、連絡先、メモ

○年度より入会と明記して下さい（4月1日～翌年3月31日を一年度とする）

- ・法人、事業所、団体会員（会費年間10000円）

住所、名称、代表者氏名、連絡先

○年度より入会と明記して下さい（4月1日～翌年3月31日を一年度とする）

寄付金公募について

日本A S友の会では、運営資金および多岐にわたる今後の諸活動を円滑に進行発展させるための浄財を広く公募しています。

金額については、上限下限一切制限はありません。また常時受け付けております。

ご寄付いただきました方々のご芳名は、会報に随時掲載させていただきます（匿名可）。

ご寄付いただきます場合は、必ず郵便振込みをご使用下さいますようお願い致します。

お知り合いの会員及び役員などを経由もしくは直接会長か事務局長へお申し出ただけましたならば、折り返し、振込み用紙発送の手配をさせていただきますが、もしも郵便局備付けの用紙をご使用下さいます場合には、必ず通信欄に『寄付』と明記して、ご発信願います。

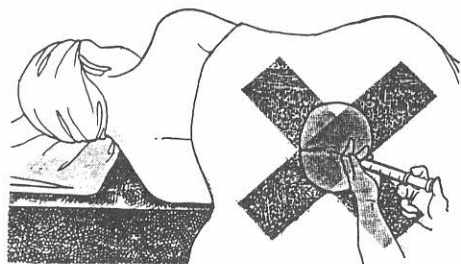
郵便振替口座	東京2 - 753819
	「日本A S友の会」



ASワンポイントアドバイス

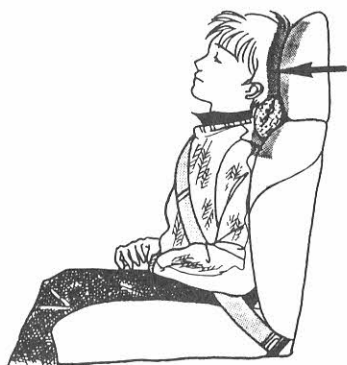
その1

AS患者では、脊椎が曲がらず、また脊髄の後ろにある膜も肥厚・骨化して、脊椎（腰椎）麻酔の針が刺さりにくくなっています。知らないお医者さんも多いので、手術（たとえば足の骨折、虫垂炎、痔など）を受ける時には、予め伝えておきましょう。



その2

AS患者がムチウチ症になると重症になります。自動車に乗る時には、後頭部を枕か背もたれにできるだけ密着させておきましょう。



その3

AS患者の1/4～1/3に虹彩炎（ブドウ膜炎）が合併します。急に目が痛くなったり（全く痛みのない人もいます）、充血したり、やたらに眩しくなったり、涙が多くなったり、そして視力が一気に低下したら、すぐに眼科に行きましょう。早期に適切な治療が施されれば、決して怖い病気ではなく、また失明の恐れ也没有せん。



その4

落ちた物を拾うのが困難なAS患者には、医療器具（リーチャー ¥7000）よりも、トイボックス社（☎03-3844-7216）から発売されているおもちゃ“アイアンハンド”の方がずっと安くて（¥1000）便利！。



アイアンハンド



リーチャー

その5

AS患者さんが、他の病気にならないという保証はありません。特に、ASの痛みと紛らわしい疼痛性疾患（たとえば自然気胸、腎臓結石、腎盂炎、骨癌転移など）の発見が遅れがちになります。従って、35才を過ぎたら年に1回は、全身チェックすなわち人間ドックに入って余病発見に努めるべきです。その際には、AS患者用特別検査メニューとして、ブドウ膜炎、尿路結石、大腸疾患などのチェックも依頼しましょう。

その6

ASはじっとしてはいけないうちの数少ない病気の一つです。運動することによってむしろ痛みは軽減するはずです。職場でも家庭でも、できるだけ体を動かしましょう。長時間座位をとらなければならない仕事の人は、できるだけ肘掛けのついた、垂直に近い背もたれの、そして前後に浅くまたクッションが硬めの椅子を使い、15分～30分おきに全身の屈伸運動を心掛けましょう（特に脊柱の伸び）。昼休みには20分くらい硬いベッドで臥床することも勧められます。また長距離ドライブ中には、30分に1度は停車し、車外に出て運動をしましょう。コンタクスポーツ（格闘技など相手と直接接する種目）以外なら、何でも良いですから、医師と相談しながら、積極的にスポーツに取り組みましょう。精神衛生上も決して悪いはずがありません。（ASA患者用手引き書より）



* 会員の皆さんの個々の体験に基づくAS療養上の知恵や工夫を、この欄に掲載して行きます。奮ってご投稿下さい。



(家族から)

「私の援助」

安 藤 真由美

私の父（54歳）は、体格もよく、大きな病気もせず、病院に通うことはあまりありませんでした。それが昭和63年頃より肩の痛みを訴えだしたのですが、私は加齢的な五十肩だと思っていました。看護婦をしている私は、堺市で寮生活をしており、一週間に一回、家に帰っては相変わらず痛がっているな・・という感じでした。次第に父は首が痛いと言い始めたので、私は近くの市民病院を受診する様にすすめました。しかし、そこでも年齢的なものだろうと言われ、しばらく接骨院に通っていました。3ヶ月程通ったのですが、痛みは強くなる一方の様で、夜間、痛みで目が覚める程になっていました。その頃になると、首がほとんど回らなくなってしまいました。父は自分の会社の診療所でも診てもらい、昼休みを利用して牽引をしていましたが、“痛みでくるい死にをしそうだ”と言いだし、私は年齢的な症状にしてはおかしいなと思い、平成元年に自分の病院を受診させました。その日はレントゲンと血液検査をし、後日、私が結果を聞きに行きました。そこで初めて強直性脊椎炎と言われたのですが、恥ずかしいことに私はその病気を知らず、その医師も“診断はしたものの今までその病気の患者を診たことがない、一種の膠原病だから、もうしばらく様子をみなさい。”と言うだけでした。私

は自分の身内からまさか・・・というショックで冷静さを失い、すぐ会社にいる父に電話をしていました。「膠原病らしい」と。その日、私は仕事が手につかずただ“どうして・・・”と泣いてばかりいました。きっと父も同じ心境だったと思います。あとから母に告げると“何故お父さんに言ってしまったの”と私一人の判断で父に膠原病と言ってしまったことを責められました。それから強直性脊椎炎について病院の図書室で調べ、他の医師にも聞いてみましたが、みな“病名は知っているけど、具体的な治療は知らない”と言われたのです。ある医師から、“リウマチと似ているから大阪労災のリウマチ科を受診してはどうか”と言われ、最初に診てもらった医師に紹介状を依頼したのですが、“キミが一緒について行って説明すればいい”と書いてはくれませんでした。診断されてから1ヶ月経過していましたが、痛みは少しおさまっていたようでした。しかし、首の動きは鈍く、誰が見ても“おかしい姿勢”になっていました。労災病院を受診した日は今でもハッキリ覚えています。父の不安な顔は初めてみたように思います。労災病院の辻本医師の第一声は“よくみつけたな”でした。ご存じの通り、この病気はただの関節炎やリウマチでかたづけられ、放置していた為に骨

の強直が進んでいってしまう例が多く、その点、父はまだ初期の様でした。炎症を示す血液検査がかなり高値だったため、とにかく炎症を静め、痛みのない限り動かしなさいと言われ、ここから父と強直性脊椎炎とのつき合いが始まりました。私は辻本医師の書かれた文献や自分で調べた資料を父に見せ、とにかく病気を理解し、自分で強直を防ぐしかないんだからと、ストレッチ体操を勧め、全身運動のプールを始めました。投薬で少しずつ炎症値も下がり始めましたが、合併症の虹彩炎になり、全身に湿疹が出来たりと、一進一退でした。すぐ疲れる様で、口に出しませんでしたが動きが急に鈍くなるので、見ていてすぐわかるようになりました。布団も固い方が良いのでマットレスを取り除き薄い敷布団に変え、横になって寝るため“上を向いて”と起こしていました。父は割と楽天家でしたが、体の不自由さはやはりこたえたようでした。好きなゴルフも回数が減り、病院に行っても車イスや杖をついている人を見て、いつか自分も独歩出来なくなるかも知れないとビクビクしていたのではないかと思います。家族に迷惑をかけてはいけないと思っただ、父は“疲れた”とか“痛い”とか言わず、私は一週間に一回、家に帰ってはこっそりと母に父の様子を聞いていました。先週よりも首が回っていないねと母に言っても、毎日見ている母にはわからない時もあったようです。本人の動かそうという自覚しかなく、私たちは疲れさせない程度に・・・と見守るしかなかったように思います。仕事場では患者に“ガンバッテ”と言える私が、父には何故か照れて言えませんでした。

月日が経つにつれて、少しずつ父の動きも鈍さが取れ、表情も家の雰囲気も明るくなってきました。1ヶ月に1回の通院も2ヶ月に1回に



減り、投薬も1日に1回から2日に1回と減り、父も楽しんでプールに通う様になりました。そして昨年の12月、辻本医師から“あなたのようによくなったケースはめずらしい。薬ものまなくていい。又、調子が悪くなったら来なさい”と言われました。父は、本当にうれしそうでした。

しかし、今年の2月より股関節の痛みを訴え、又、通院しています。強直性脊椎炎の病因は不明で、その経過も一定していません。いったんはよくなったように見えても徐々に進行し、経過が極めて長いため、熱心に継続することが少なく、気がつくと強直部分が増えていたということも少なくありません。動きがよくなった→必要最小限の関節しか動かさない→強直が進む、のくり返しにならないように、運動を促していくことが大切なようです。決して悲観的な病気ではありません。どうかみなさんも現状が維持出来るように努力なさってください。

患者さんのための「療養の手引き書」作成に関するお願い

ASIF (AS国際連盟) 加盟にともない、NASS (イギリスの友の会) や ASA (アメリカの友の会) で既に発行されている患者のための手引き書をもとに、日本の医療環境、社会環境、生活環境に則した「日本版・AS療養の手引き書」とでも言うべきものを、井上副会長(事務局長)が監修責任者となって作成中です。

井上副会長は、氏自身が患者であると同時に、順天堂大学整形外科で医師としてASの診療に当たっており、この作業に対して大変な情熱をもやしています。日頃私たちが疑問を感じているところ、知りたいことなど、出来るだけわかり易く解説したものをとの要望にこたえ、Q & A方式となる予定です。この中で、是非、取り上げてほしいと思われる疑問や質問をどしどしお寄せ下さい。(会長 田中健治)

宛先 日本AS友の会事務局



AS特別診、電話相談窓口開設のお知らせ

〈順天堂大にて7月より〉

平成4年7月より、東京文京区本郷の順天堂大学医学部付属順天堂医院(JRお茶の水駅から徒歩5分)の整形外科外来にて、AS特別外来ならびに電話相談窓口が開設されます(担当:井上久整形外科医)。毎月第1&3火曜日の午後1時~3時が診察、電話相談は午後3時~4時30分となる予定です。受診の際には、できるだけ電話予約をして下さいとのことです(TEL 03-3813-3111 内線2133~4)。

会員名簿送付のお知らせ

日本AS友の会では、今後、会員相互の連絡を密にするため、会員名簿を作成し、会員の皆さんにお配りする予定です。

つきましては、氏名・住所などの名簿掲載を希望されない方は、事務局へ直接ご連絡下さるか(TEL 0422-45-7985、FAX 0422-49-6817)、会費納入用郵便振替用紙の通信欄に、その旨をご記載下さい。

予告と原稿募集のお知らせ

会員の皆様のご寄稿をお待ちしています。専門医に聞きたいこと、自分の経験に基づく療養上の知恵や工夫、日本AS友の会の活動に関する提言、医学界に言いたいこと、自分の闘病生活における様々なエピソード、あるいは家族の方の看護上のご苦労話などでもけっこうですので、編集部までどしどしご応募下さい。

ASにおいては、その初発症状が非常に多彩なために、初期診断が遅れるケースが多いようです。今後、医学界における病態分析、病因究明、治療法開発にあたり貴重な資料となることを期待し、会員各自の病状（初発症状、初期診断名、初期治療、疼痛軽減に最も有効だった薬剤名・量・投与法、眼症状や腹部症状の併発状況、家族発症状況、病状鎮静化年齢・・・）に関するアンケート調査も実施していく予定です。その際には、できるだけ多くの会員のご協力をいただきたいと思います。また、一般医の間でさえ十分に知れ渡っているとは言えない『強直性脊椎炎』に関する最新の医学情報も、逐次掲載していく予定です。一編集部一

原稿送付宛先 181 東京都三鷹市新川1-11-5

井 上 久 気付
日本AS友の会事務局

第2回日本AS友の会開催のお知らせ (第2回日本AS研究会と合同開催)

と き 平成4年10月24日(土)

A.M. 10:00 役員会(予定)但し、ASに関する教育研修講演になる可能性あり

A.M. 11:00 友の会(予定)
昼食は用意します。

ところ 大阪市福島区福島三丁目1番73号
コミュニティプラザ大阪
06-454-1153

会 費 2,000円(予定)

一会員家族及び賛助会員も同額一
3,000円(予定)

一友の会に入会していない方々一

活動報告、会計報告、運営会議の他、井上久整形外科医によるAS説明会(スライド使用)ならびに質疑応答、第2回ASIF国際大会(10.14~17. 於オーストリア)の報告会などを行う予定です。

◎参加希望者は、はがきで友の会事務局へお申込み下さい。



A S 専門医の紹介

今回は、日本 A S 研究会理事ならびに日本 A S 友の会顧問医に限定
させていただきました。今後、新しい情報が入り次第、逐次お知らせ
していきます。

①住 所 ②電話番号 ③医療機関名

★上好 昭孝

・柴田 大法

③和歌山県立医科大学付属病院整形外科

③愛媛大学医学部付属病院整形外科

★小松原良雄

・神宮 政男

③大阪府立成人病センター整形外科

③九州大学生体防御医学研究所内科

・斉藤 輝信

★辻本 正記

③東北労災病院リウマチ膠原病科

③大阪労災病院リウマチ病科

・酒匂 崇

★西岡 淳一

③鹿児島大学医学部付属病院整形外科

③滋賀医科大学医学部付属病院整形外科

・七川 敬次

★沼賀 二郎

③七川記念榊原リウマチ病センター

③東京大学医学部付属病院眼科ブドウ膜外来

・広畑 和志

③神戸大学医学部付属病院整形外科

・福田 真輔

③滋賀医科大学医学部付属病院整形外科

★藤野雄次郎

③東京大学医学部付属病院分院眼科

★前田 晃

③国立大阪南病院整形外科

・松井 宣夫

③名古屋市立大学医学部付属病院整形外科

★三井 弘

③社会福祉法人三井記念病院整形外科

・三浪三千男

③北海道整形外科記念病院

・山名 征三

③西条中央病院内科

★印は顧問医〔五十音順〕

・井上 久（友の会副会長）

③順天堂大学医学部付属順天堂医院整形外科

日本AS友の会・役員一覧表

(事務局) 〒181 東京都三鷹市新川1-11-5 井上 久 気付
TEL 0422-45-7985・FAX 0422-49-6817

会 長

田中健治

(タナカ印章工芸、自営・身体障害者相談員)

監事 (埼玉地区長)

塩崎浩三 (会社員)

監事 (編集委員)

安黒正流 (読売新聞大阪本社学芸部)

副会長 (事務局長)

井上 久 (順天堂大学整形外科医師)

監事 (自助具開発委員)

吉田正靖 ((株) 岡三興業、役員)

副会長 (関東支部長)

中島拓朗 (写真関連業、自営)

委員 (滋賀地区長)

金光健宅 (白井松新薬 (株)、社員)

副会長 (関西支部長)

西 文夫 ((株) 西文産業、代表取締役)

日本 AS 友の会・役員一覧表

(事務局) 〒181 東京都三鷹市新川1-11-5 井上 久 気付
TEL 0422-45-7985・FAX 0422-49-6817

会 長

田中健治

(タナカ印章工芸、自営・身体障害者相談員)

監事 (埼玉地区長)

塩崎浩三 (会社員)

監事 (編集委員)

安黒正流 (読売新聞大阪本社学芸部)

副会長 (事務局長)

井上 久 (順天堂大学整形外科医師)

監事 (自助具開発委員)

吉田正靖 ((株)岡三興業、役員)

副会長 (関東支部長)

中島拓朗 (写真関連業、自営)

委員 (滋賀地区長)

金光健宅 (白井松新薬 (株)、社員)

副会長 (関西支部長)

西 文夫 ((株)西文産業、代表取締役)

会 報 らくちん

創 刊 号

発 行 日 平成4年(1992)7月1日

発 行 日本AS友の会(JASC)

発行責任者 田 中 健 治

事 務 局 〒181 東京都三鷹市新川1-11-5 井上 久 気付
TEL 0422-45-7985 FAX 0422-49-6817